

デルフィニウム・エラータム組織培養苗の順化技術について

1. 試験のねらい

デルフィニウム・エラータムは、実生から栽培しているが、品種としての形質が安定しないため開花時期、花色および形態などの切り花形質が不揃いであり、安定的な計画生産を妨げている。組織培養苗は親株の腋芽から増殖するので親と同じ形質をもっており、組織培養苗を用いた栽培では、安定的な計画生産が可能になる。そのため組織培養苗を生産するための、順化法について検討した。

2. 試験方法

品種ブルースプリングスの生長点由来による塊茎を分割し、増殖した苗を7月28日に水洗いして供試した。順化時の発根数は1区：無（根が無い）、2区：少（根が1～3本）、3区：中（根が4～6本）、4区：多（根が7本以上）で検討した。128セル角（3.0×3.0×4.6 cm）のセルトレイで、用土はメトロミックス-350を用いた。かん水は晴天時に50 ml/トレイを8回/day 細霧かん水し、曇雨天時には加減した。施肥は8月16日からOK-F-10（チッソ15%、リンサン15%、カリ15%）の1,500倍液を週1回施用した。室温はMin. 17℃、Max. 25℃で管理した。

3. 試験結果および考察

- (1) 順化率は、順化時の発根数が、無の区で92.1%、少の区で93.3%、中の区で93.9%、多の区で97.4%であり、フラスコ出し時の根量が多い区でわずかに順化率が高かった。（表-1）
- (2) 成苗時の生育は、展開葉数4.4～4.6枚、基部から4枚目の葉の大きさは縦3.4～3.5 cm、横3.5～3.7 cmであり、区間差は認められなかった。（表-2）

4. 成果の要約

デルフィニウム・エラータムの順化に対する発根数の関与は小さい。また、育苗時の生育に対する順化時の発根数の関与も小さかった。順化時作業の難易性を考慮すると発根数の少ないうちに順化することが、有利であると思われた。

（担当者 花き部 岡部陽一）

表-1 苗の順化率（9月28日）

区No.	順体の数（本）	成苗率（%）
1	0	92.1
2	1～3	93.3
3	4～6	93.9
4	7以上	97.4

表-2 成苗時の生育（9月28日）

区No.	順体の数 (本)	展開葉数 (枚)	基部から 3枚目の葉		基部から 4枚目の葉	
			縦(cm)	横(cm)	縦(cm)	横(cm)
1	0	4.4	2.4	2.6	3.5	3.5
2	1～3	4.5	2.7	3.0	3.5	3.6
3	4～6	4.5	2.7	2.9	3.4	3.7
4	7以上	4.6	2.6	3.0	3.5	3.7